

あ い い っ ぱ い り そう あ ふ れ る だ い す き な ま ち



行政パートナーとして活躍している

女性フォーラムを開催します

～あがらでありだしつくろらよ～

「行政パートナー制度」をご存知ですか？

この制度は、事前に登録していただいた個人や団体に、市と一緒に取り組んでいただける事業を継続的に協働していただくもので、行政と市民の架け橋となるものです。
この行政パートナー制度を活用した初めての取組が始まっています。
ふるさと「有田市」を、市民が、特に未来を担う子どもたちが「誇り」に感じてもらうためにはどうすればいいのか？
今、有田市の女性たちが立ち上がりました。

全ては、「まちの誇り」のために

少子化が進んでいる現在、行政は、結婚、妊娠、出産、育児と切れ目のない支援をしています。しかし、未来のためにはそれだけでなく、地域の大人たちが、次の世代に有田市の良さを伝えていく、つまり「まちの誇り」を継承することが重要です。

そのためには行政目線だけでなく、市民目線も大事であり、行政パートナーで有田市在住の生駒彩さん、内藤砂夕美さん、川島恵理さん、田中典子さんと「次の世代へ有田市の良さを伝えるためにどうしていくか」を一緒に考えていくことになりました。

何度か話し合ううちに、「日々の生活から生まれる小さな疑問や関心に対応することこそが、市民がもっとも必要としている市の活性化に繋がるのではな

いか」という考えに至りました。

特に、生活や消費について大きな役割を担う女性にスポットを当てることで、小さな疑問や関心ごとが洗いだせるのではないかと考え、年齢、職種、既婚、未婚問わず、有田市在住・在勤の女性を募ったところ、約30名の女性が集まりました。

チーム名を「わいがや娘のあがらの会」とし、女性ならではの視点で、子育てしやすいまちづくり、子どもたちに伝えていきたいまちの魅力や伝統について語り合い、実際の行動に移すため、熱い思いを持って活動しています。現在、「歴史」「食・みかん」「子育て・地域」と3つのグループに分け、歴史や郷土料理、みかん作り、子育てを楽しむ環境作りなどを話し合い、自分たちができることから作業を始めています。

「わいがや娘のあがらの会」の、とある1日

11月1日（土）、山地コミュニティセンターで開かれた会では、それぞれのグループに分かれて話し合いました。「食・みかん」グループでは、みかんづくりのスケジュールを作ることで、子どもたちに遊びながらもわかりやすく学ぶことができた。

きるのではないかと、といった内容を話しあっていました。熱い思いを持った女性たちが集うので、エキサイトするかと思いきや、何でも言い合えるような雰囲気、そして時には笑いこぼれるなど、終始和やかな空気に包まれていました。

女性フォーラム開催

現在、約30名で活動している「わいがや娘のあがらの会」。今のメンバー以外にも有田市に誇りを感じている市民の方もきつといるはず。

そんな方々にも参加してもらうためには、今現在の取組を知ってもらうことが必要です。そこで、これまでの経過や、現在の活動内容、また、これから先の抱負などを発表する「女性フォーラム」を開催します。わがまち「有田市」の良さを次世代に伝えていきたいと思っ

ている方や少しでも興味がある方は、ぜひご参加ください。ともに、有田市の未来のために、繋がるの輪を広げていきましょう。
日時／平成27年2月21日（土）
午後1時30分
場所／文化福祉センター
参加費／無料
申込／平成27年1月19日（月）
30日（金）電話で申込
申・問 福祉課（内線394）



子どもたちの輝かしい未来のために！

インタビュー

「わいがや娘のあがらの会」の運営をお願いしている行政パートナー4人のうち、行政パートナーに登録する経緯が対照的であったお2人にお話を伺いました。

有田市を「好き」になつてほしい

私は、子どもがいつか市外へ出て行ったときに「有田市は良かった」、大人になって家庭を持ったときに「有田市で住みたい」と思っしてほしいという気持ちの中で、子どもを通じての繋がりは増えましたが、一方で社会から離れたところにいるという感覚もありました。そんな時、行政パートナー制度を知ったことで、有田市に住む

川島恵理さん

子どもたちに何かを残していきたい、ここで育って良かったって思ってもらいたいという気持ちが強くあふれてきました。自分のできることは少しかもしれませんが、思いの実現のために頑張っていきたいと思

有田市が「このふるさと」に

私は市外から転入したので、有田市の知らない部分が多々あります。でも、感受性豊かな子どもたちの成長を見ていると、いつの間にか有田市の良さを吸収しています。子どもたちには有田市を心のふるさととしていつまでも覚えていてほしいと思いました。行政パートナーは潤滑油のような存在。これまで市のイ

内藤砂夕美さん

ントに参加する機会があつても、市民はお客様のような位置づけにありましたが、行政パートナーとして活動することで、市民主体となって行政に参加しやすくなると思えました。子どもたちにとって有田市が心のふるさととなるように皆さんと一緒に盛り上げていきます。



①リラックスしながら、進んでいけるように工夫されたプログラム②熱い思いを持った女性たちが結集！③終始、和やかに進むグループでの会話④最後に各グループごとに発表し、皆で話し合いました。